クラウド部会

リーダ
株式会社日立ソリューションズ　吉田行男
TIS株式会社　油谷実紀

自己紹介

OSS Consortium

油谷実紀(ゆたにみき)
TIS株式会社　戦略技術センター

Twitter: @blackaplysia
Facebook: 油谷実紀

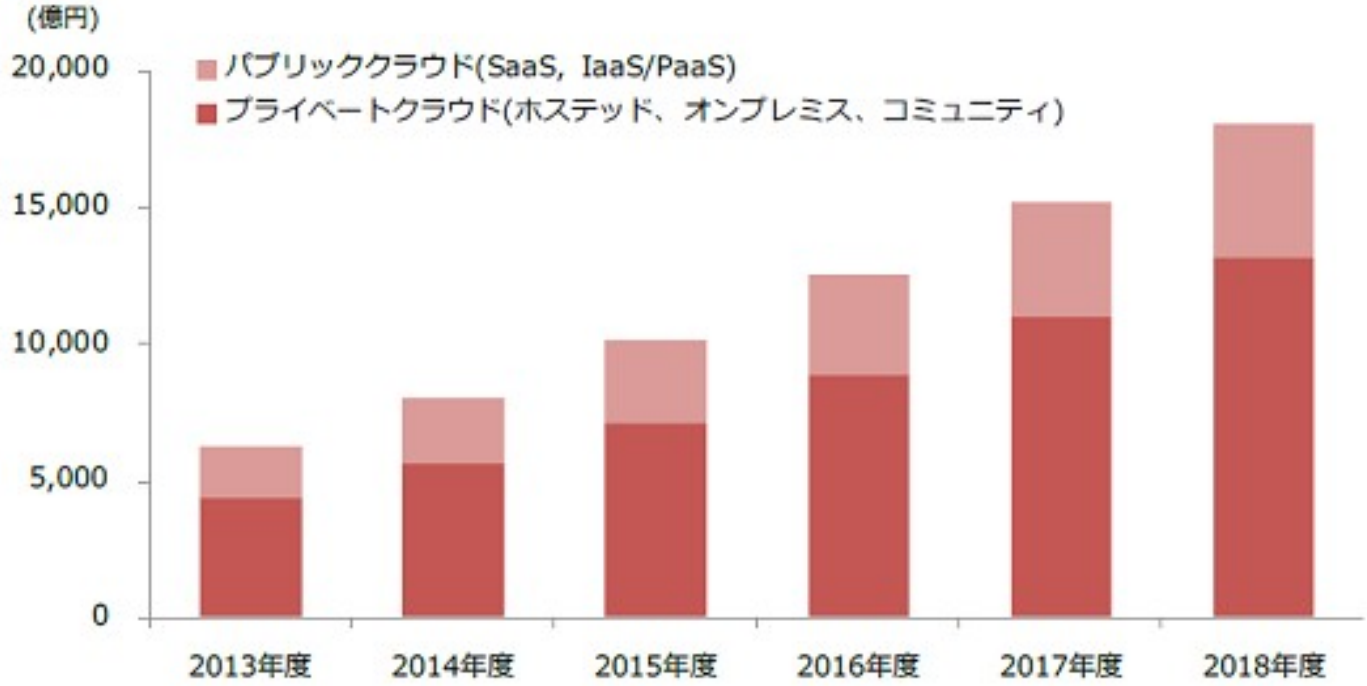
- 新規技術の企画、検証、導入
  - Software-Defined Infrastructure (SDI)
  - Artificial Intelligence (AI)
  - Internet of Things (IoT)

- OSSデザイン指向クラウドオーケストレータCloudConductorのプロダクトオーナー http://cloudconductor.org/

- 関心事
  - 人月モデルにかわるSIerのビジネスモデル
  - 生産性の低いホワイトカラーの業務を代替する人工知能

クラウド市場の拡大

- 2013年度のクラウド市場は6,257億円であり、2018年度には2.9倍の1兆8,000億円まで拡大
- そのうちプライベートクラウドの比率は2013年度で70.1%を占めるが、2018年度には73.0%と緩やかにシェアを高める

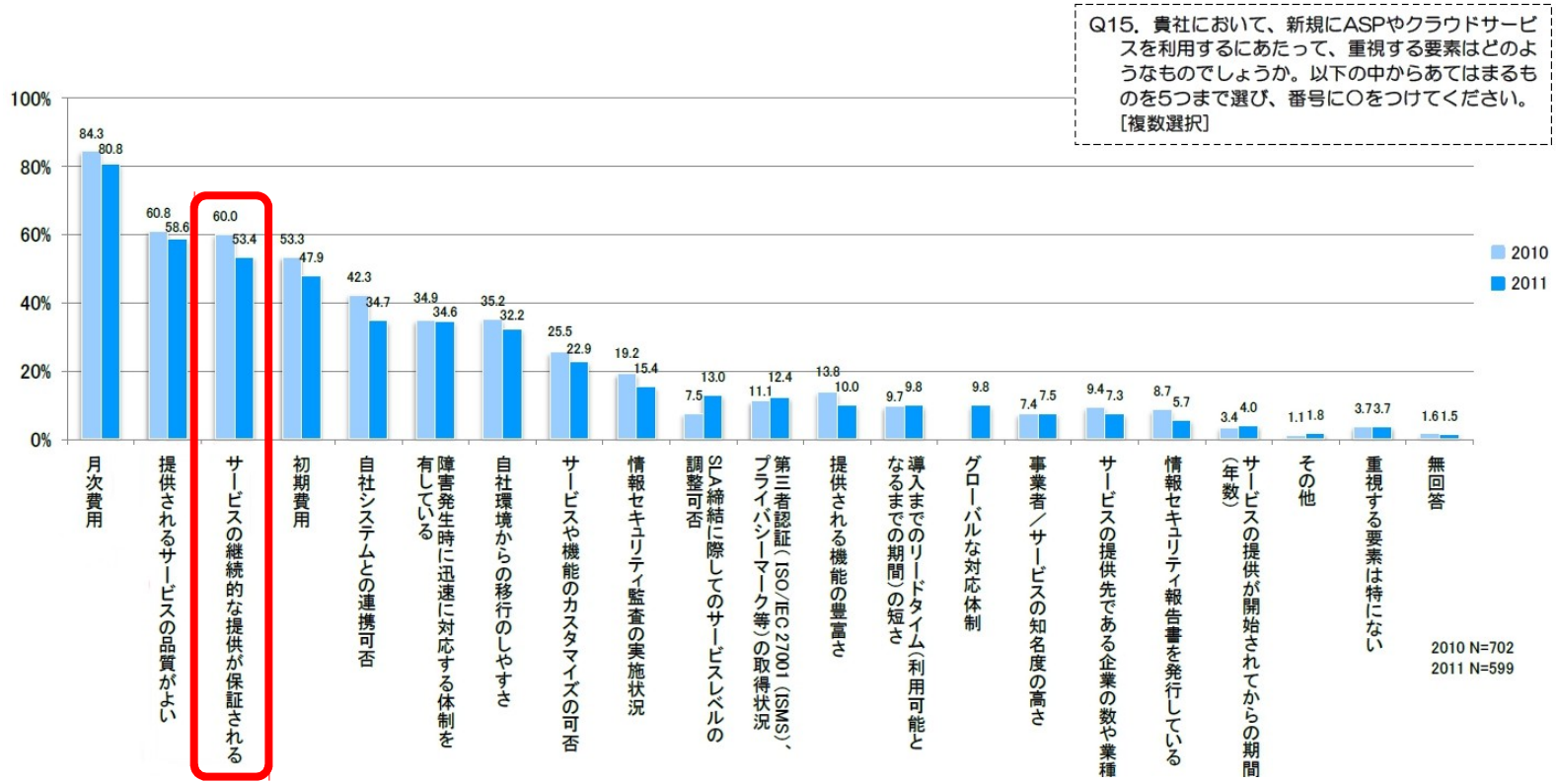


＜図 1:国内クラウドサービス市場規模　実績・予測＞

MM総研, "国内クラウドサービス需要動向(2014年版)“, 2014-11, http://www.m2ri.jp/newsreleases/main.php?id=010120141104500

クラウドサービスの継続性への期待

- クラウドサービス導入時には、クラウドサービスの継続性が保障されていることが重視されている



出展：NRI Secure Technologies, “企業における情報セキュリティ実態調査2011“を加工

クラウドサービスは終了するという現実

OSS Consortium

- クラウドサービスは永遠に継続されるわけではなく、クラウド事業者の戦略変更のために利用者が不利益を被ることがある
  - クラウドストレージサービスを展開していたNirvanix社が倒産し、
  - 2013年9月に月末でサービスを終了することを告知
  - OpenStackをベースにしたプライベートクラウド構築用アプライアンスを販売していたNebula社は、2015年4月、会社を廃業
  - OpenStack創始者の1人であるChris Kemp氏が2011年に設立
  - LINEは2013年6月、オンラインストレージサービスやオンラインアルバムサービス等を終了し、収益性の高いサービス開発に集中
  - Googleは2013年7月、RSSリーダーのGoogle Readerを終

クラウドはあたりまえのインフラになった一方、
普及期に入った故の課題もまた明らかになってきた

しかし、もはや後戻りはできない

これからの流れ=クラウドロックイン回避

OSS Consortium

- 特定のクラウドサービスに依存し、そこからの移行が困難となっている状態をクラウドロックインという

- 2種類のクラウドロックイン
  - コードレベルロックイン(code-level lock-in):
    ex. Google App Engine, Force.com
  - アーキテクチャロックイン (architectural lock-in):
    ex. AWS Lambda, IBM Bluemix

- IaaSとPaaS/SaaSとの使い分けが進む中で、前者に関してはコードレベルロックインのみならずアーキテクチャロックインを回避する方法が模索されている
  - オープンソースベースのIaaS/PaaS
    (OpenStack, Wakame-VDC, Cloud Foundry等)
  - コンテナ技術(Docker, Rocket, Mesos等)
  - クラウドオーケストレーションとマルチクラウドデザインパターン(MCDP)
    (Terraform, Prime Cloud Controller, Cloud Conductor等)

クラウド部会活動計画①

(1)目的

- クラウド環境及びビッグデータ関連でのオープンソースの適用拡大をめざす

(2)参加対象

- OSSを活用したクラウド及びビッグデータ関連ソリューション、サービスを提供している企業技術者
- 上記のソリューション、サービスを活用しているユーザ

クラウド部会活動計画②

OSS Consortium

(3)活動方針

CloudConductorの現場活用推進

CloudConductorの調査研究及び
クラウドオーケストレーションツールの活用推進

インフラデザインパターンの調査と実践

Chef, Ansible等を活用したインフラデザインパターンの調査と実践(WG設置)

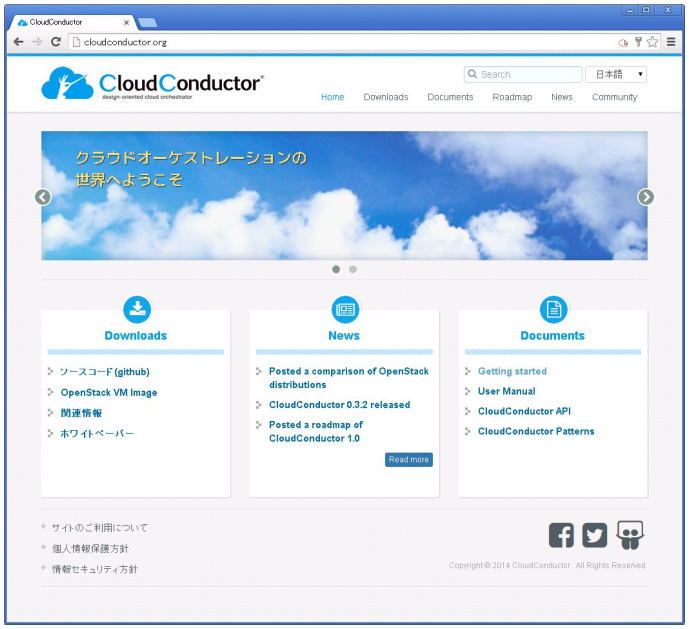
クラウド関連OSSプロダクトの調査

プラットフォーム管理やコンテナ技術等クラウド関連OSSプロダクトの調査

クラウド部会活動計画③ ～CloudConductorとは～

OSS Consortium

- デザイン(設計)パターン指向のクラウドオーケストレーションソフトウェア
- 経済産業省の支援を受けてTISにて開発し公開中(Apache License 2.0)
  - 2015年3月：Version 1.0公開
  - 2016年3月：Version 2.0公開予定
- 公式サイト http://cloudconductor.org
- AWSにてインストール済みAMI公開中
  http://cloudconductor.org/documents/user-manual/cloudconductor-ami
- 災害対策ソリューションデモ公開中(youtube)
  https://www.youtube.com/watch?v=lm81YXeUhC8



- その他のサイト
  - https://twitter.com/ccndctr
  - https://www.facebook.com/cloudconductor
  - https://github.com/cloudconductor
  - http://www.slideshare.net/cloudconductor

クラウド部会活動計画④

(4)活動内容

- 部会の実施(隔月1回実施)
  ①CloudConductor開発状況の確認
  ②クラウド関連ソリューションの紹介
- インフラデザインパターンWG(仮称、毎月1回実施)
- セミナーの開催(年1回)

(5)メリット

- クラウド関連ソリューション提供企業の生の情報の入手
- クラウド関連ソリューション提供企業との協業の検討

(6)リーダ

- 株式会社日立ソリューションズ
  技術開発本部 研究開発部 主管技師　　吉田 行男
- TIS株式会社
  戦略技術センター　センター長　油谷　実紀

お待ちしております

OSS Consortium

お気軽に

ご参加ください